

上越市だより

保阪家怡顔亭(いがんてい)を公開(七月)

頸城筆頭の旧大地主保阪家の怡顔亭と隣接する庭園が一般公開された。上越地区に六百五十町歩の所有地を誇った戸野目の保阪邸千三百平方メートルの敷地には明治時代に建てられ、贅を尽くした京風建築が世紀を超えてたずんでいる。隣接する苔むした庭園は歴史を物語っている。



大相撲上越場所に大興奮(八月)

五年ぶりとなる大相撲がリージョンンブラザ上越で行われ、四千五百人の観客が横綱白鵬や大関琴光喜、地元出身の霧鳳らの力相撲を堪能した。上越わんぱく相撲教室に通う小中学生二十人が胸を借りて楽しんだ。



信越本線(柿崎・柏崎)が運転再開(九月)

中越沖地震の発生、青海川駅付近の土砂災害で不通になっていた信越本線・柿

崎・柏崎間が五十九日より回復した。これで日本海縦貫の大動脈全線が復旧した。

青海川駅は日本一海に近い駅として知られている。

日本最古の埋蔵「亮券木簡」を発見(九月)

下野田延命寺遺跡から出土した木簡が日本最古の「亮券木簡」であることが分かった。この遺跡は三和道路工事で昨年からの発掘されており、二十一点の木簡が発見された。天平七年(七百三十五年)の日付けで、「物部郷某里の戸主、物部多里丸の一族が関係者と思われる物部烏丸が、野田村に持つ田畑を伊神郷の酒君大嶋に売った」という内容である。

田領の資料としても貴重で、この遺跡



が役所の出先機関であった可能性を示唆している。

「出張!なんでも鑑定団」(九月)

テレビの人気番組「出張!なんでも鑑定団」が九月十七日上越で収録された。

多くの応募者の中から選ばれた六人が自慢の掛け軸や書画を出品した。

放送はテレビ東京で十月二十三日、新潟総合テレビで十一月十七日放映された。



謙信公についての一 番詳しい本(十月)

上杉謙信の研究家であり、Jネット文化講演者の花ヶ前盛明さんが「上杉謙信」を新装版として刊行された。

謙信公の生涯や合戦、人柄、経済力などが資料と共に紹介され、特に川中島合戦は詳しく解説されている。 新人物往来社 二、九四〇円



モクスガニどつさり(十月)

吉川区を流れる吉川には春先から晩秋まで、海から移ったモクスガニが生息している。静寂な川底にひそみ、もとも脂がのる十月から十一月にかけて漁の最盛期である。とつくり型「ツツカゴ」と呼ぶ



ワナは高さ九十センチ程で、底にカニが進入する通路があり、魚のアラなどに惹かれて進入したカニは戻れないようになっている。塩ゆでやみそ汁にするとこの季節だけの絶品である。

二十年ぶりに登山解禁になった焼山(十月)

昨年未二十年ぶりに登山解禁となった焼山(標高二千四百メートル)はその見晴らしの美しさで賑わっている。火打、妙高、笹ヶ峰ダムを一望出来、振り返れば日本海を望める。



映画「ふみ子の海」が満足度一位(十月)

情報誌「ぴあ」の映画館の出口調査やモニター調査によるランキングで、「ふみ子の海」が満足度一位を獲得した。大雪の大変さや荒々しい日本海、厳しいが美しい新潟の自然、盲目の人に対する思いを認識したと幅広い年代から絶賛された。



居多神社で遷座祭(十月)

五智の越後一の宮・居多神社が百年ぶりに新社殿を造営するにあたって、御神体を仮宮に移動する遷座祭が厳粛な雰囲気



気の中で行われた。現在の社殿は明治の火災後に造営された仮社殿である。御神体の納められた唐櫃は笛の音に先導され、かがり火の境内をゆつくり進み、無事仮宮に遷座された。新社殿は来年五月の春祭りまでの完成を目指して工事が進められる。

直江津小学校、現校舎での最後の文化祭(十月)

昭和四十二年に建てられ多くの卒業生を送り出した校舎は今年度中に全て取り壊される。現在の校舎での最後の文化祭では、学年別の「汐なりコンサート」が開かれ、多くの住民や児童が別れを惜しんだ。新校舎には十一月に移る予定。



新酒にこり造り2007「岩の原葡萄園（十月）」

岩の原葡萄園は、醗酵後の安定化処理や濾過を最小限にとどめた「にこり造り2007」の新酒を発売した。「にこり」は独特の色合いと風味、フルーティーな香りとやや甘口のワインでアルコール度数は9%と低く、一九五五年以来の人気商品。



高田日活映画館を永遠に（十月）

まもなく築百年を迎える「日本最古の映画館」と言われている本町六丁目の高田日活を保存する運動が始まった。明治四十四年に芝居小屋「高田座」として始まり、「セントラルシネマ」、「松竹」など名前を変えて現在まで続く現役の映画館。外観・内装とも明治・大正の洋風建築で二階もあり、音響も良く風情あふれる建物だが、老朽化が進んでいる。

映画館前の建物が撤去されたため本町通から見えるようになった。
寄付を募る絵ハガキを四枚千円で販売

している。



新井別院の梵鐘 二百六十年ぶりの帰還・公開（十一月）

江戸時代に矢代川の大水害で流出し、不明だった梵鐘が市内の建設現場から二百六十年ぶりに発見され、新井別院の「おたや」で公開された。奇跡と喜ぶ声があがっている。



ある日の直江津港釣りの情報（十一月）

アジ、サヨリが好調。アジは夜から早朝にかけて数が上がる。直江津港のアジは十二から十四センチが一人で四十二匹、黒井新堤で二十センチが一人二十から三十四。直江津港内でサヨリが百匹以上。帰省の折に如何ですか。

「文藝界」新人賞に早川阿栗さん（十一月）
第百五回文藝界新人賞の島田雅彦奨励賞を「東京キノコ」で授賞した。「東京キノコ」は若い女性の一人称。高校生のころ、暴力を振るう弟を両親が殺した。弟と両親への感情や恋人などへの感情を何故か部屋に生えてきたキノコを背景に書いている。

受賞作は「文藝界」十二月号に掲載される。



吉川高校が一世紀の歴史に幕（十一月）

吉川高校が来年三月に閉校するのに先立ち、同窓会などが組織する閉校記念実行委員会が記念式を挙行了した。明治四十三年に開校し、九十八年の歴史をもつ母

校に別れを告げる。

郷土を担う農業科、醸造科は独自の職業教育を展開したが、普通科志向の社会情勢と少子化で柿崎高校との統合及び比較高校の開校へと進んだ。

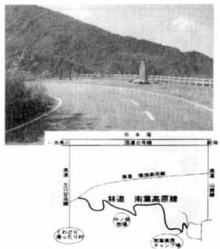


南葉高原線全線開通（十一月）

上越市の北西部に位置し、後谷から中ノ俣を結ぶ十二、六十キロの林道「南葉高原線」が開通した。沿線の水源林の整備、水源かん養機能強化、また南葉高原キャンプ場、南葉山登山道、中ノ俣牧場及びびくわどり湯つたり村を連結することになる。



「みんなで学ぼう上越学、みんなで育もう
郷土愛」(十一月)
上越青年会議所の地域の魅力開発委員
会は「ネット相談役の佐久間昇二さんの
講演とパネルディスカッションを開催し
た。佐久間相談役は上越市を「全国有数の
人材輸出、流出都市。コメ依存型の農業の
割に上越ブランドのコメは都会で売れて
いない。地場産業に特徴がない。観光資源
があっても宿泊施設が足りない」と統計
に基づき冷静な分析で指摘した。



井手さん講師に市議が勉強会(十一月)

「Ｊネット理事で直江津港振興推進員の
井手高吉さんが「産業構造の変化と考え
方」と題して市議会議員の皆さんの勉強
会で講演した。現在を第三次産業革命の
時代とし、産業界や物流業界への影響を
説き、ＩＴやグローバル化の進展に対応
した選択とスピードが現場に求められて
いるとして、人間力や機能性がこれから
の新しい総合経営の方向性と説明した。

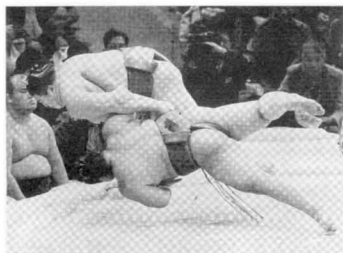


技能五輪で金 下源人の大島さん

(十一月)

静岡で開かれた二十二歳以下対象の
「ユニバーサル技能五輪国際大会」洋菓子
部門で大島千奈さんが金メダルを獲得、
世界一になった。四日間かけて、十五人の
各国代表がマジパン細工、アントルメ(洋
生菓子)、チョコレートなど六種類の菓子
を制作し競い合った。

最高の親孝行と喜んでいる。



がんばれ！霜風(十一月)

大相撲九州場所で十勝五敗の好成績で、
幕内復帰への期待が大きくなりました。
写真は十二日目上手投げで勝利し、九
勝目をあげた一番です。

